

(案)

上天草市第 4 期教育振興基本計画（概要版）

令和 7 年 12 月 5 日
上天草市教育委員会

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

本市では、第3期計画の成果と課題を踏まえ、少子化やICTの進展など変化する環境に対応し、誰一人取り残さない教育の実現を目指して計画を策定します。

2 計画の位置付け

教育基本法第17条に基づき、国・県の計画及び上天草市教育大綱、第3次総合計画と整合を図りながら、また、デジタル活用と地域連携による学びの深化を推進します。

3 計画の期間

令和8年度から令和10年度（国等の次期計画改定に合わせ、次期計画を策定します。）

第2章 計画の基本理念

1 基本理念

ふるさとに誇りを持ち未来を切り拓く人づくり

2 重点目標

（1）次世代を担う人材の育成

上天草市の未来を担う子どもたちの生きる力と上天草を愛する心を育み、郷土に誇りを持ち、社会を柔軟に生き抜き、未来を創造する人材を育成します。

（2）自ら学び明日を拓く地域に根付いた生涯学習の実現

市民一人ひとりが文化芸術・スポーツ活動に取り組み、デジタル社会に対応した新たな学びを取り入れながら、生涯にわたり学び続ける環境を整えます。

3 施策の基本方針

（1）生きる力をはぐくむ学校教育の充実

学力の充実、道徳・人権教育の推進、ICT教育の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを促進します。共生社会に対応し、多様な人を大切にする心を育みます。

（2）学びを支える教育環境の充実

学校規模の適正化や施設整備を進めるとともに、不登校・特別支援を必要とする児童生徒への支援体制を強化し、教育支援センターや専門職との連携を深めます。

（3）教育のデジタル化の推進

ICTを日常的な学習活動や教育経営の中に位置づけ、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、教職員がICTを効果的に活用して授業改善や業務の効率化を図るなど、学校全体で教育のデジタル化を推進します。

（4）生涯学習の推進による地域の活性化

誰もがICTを活用して学び続けられる環境を整備し、市民参加型の学習機会を提供することで、地域社会の持続的発展と市民のウェルビーイング向上を目指す。

（5）個性豊かな地域文化の振興

伝統文化や芸術活動の継承と文化財の保護・活用を推進し、次世代に継承できる環境を整えます。

（6）スポーツ文化の振興による地域の活性化

(案)

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しみ、健康で生きがいを持てる社会を目指します。
地域大会やイベントを充実させ、地域指導者の育成や施設の長寿命化を進めます。

第3章 施策の展開

1 上天草市第4期教育振興基本計画体系

計画の基本理念を実現するため、6つの基本方針を基に、10の基本施策と23の施策並びに71の主な取組を設定します。

【学校教育の充実】

基本方針1 生きる力を育む学校教育の充実

基本施策		施策	
1	豊かな心の育成	(1)	郷土愛・キャリア教育の推進
		(2)	人権教育と指導体制の充実
		(3)	いじめ・不登校対策と自己肯定感の育成
2	確かな学力の育成	(1)	学力と情報活用能力の育成
		(2)	基礎・基本の定着と学習習慣の形成
		(3)	特別支援・インクルーシブ教育の充実
		(4)	グローバル社会における人材育成（外国語教育の充実）
		(5)	主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成（SDGsの推進）
3	健康で安全な生活のできる資質や能力の育成	(1)	子供の体力向上を図る取組の推進
		(2)	学校給食の充実と食育の推進
		(3)	防災・防犯・交通安全教育の推進

基本方針2 学びを支える教育環境の充実

基本施策		施策	
1	学習指導体制の整備	(1)	教員研修と校内研究の充実
		(2)	働き方改革の推進
2	教育環境の充実	(1)	学校施設・ICT環境の整備
		(2)	安心して学べる学習環境の確保
3	家庭・地域・学校の協力体制の充実	(1)	学校と家庭や地域をつなぐ取組の充実

基本方針3 教育のデジタル化の推進

基本施策		施策	
1	教育のデジタル化の推進	(1)	教育のデジタル化の推進

【生涯学習の充実と地域文化・スポーツ文化の振興】

基本方針4 生涯学習の推進による地域の活性化

基本施策		施策	
1	生涯学習の充実	(1)	生涯学習の推進
		(2)	人権教育の推進

基本方針5 個性豊かな地域文化の振興

基本施策		施策	
1	地域文化の振興	(1)	文化芸術活動の促進
		(2)	文化財の調査と保存活用、情報発信

基本方針6 スポーツ文化の振興による地域の活性化

(案)

基本施策		施策	
1	スポーツ機会の充実	(1)	スポーツ活動の推進
		(2)	スポーツ施設の活用と整備

2 施策の展開

【学校教育の充実】

基本方針 1 生きる力を育む学校教育の充実

1-1 豊かな心の育成

1-1-1 郷土愛・キャリア教育の推進

【現状と課題】

人口減少が進む中、児童生徒が郷土に愛着を持ち、地域の担い手としての意識を育てることが課題です。郷土理解や体験活動を一体化させ、地域に関わる力を育む学びの体系化が求められます。

【主な取組】

- ① 郷土愛・キャリア教育の推進
- ② 地場産業の理解促進による地域の魅力再発見の学習<新>

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
将来ふるさと（上天草市）の役に立ちたいと回答した児童生徒の割合	96%	100%

※ 現状値には、令和6年度実績値を記載。

1-1-2 道徳・人権教育と協働体制の充実

【現状と課題】

いじめや人権課題が複雑化する中で、児童生徒が他者を尊重し共に生きる力を育てる体制づくりが課題です。学校・家庭・地域が共通の価値観を共有し、協働して子どもを支える仕組みの強化が求められます。

【主な取組】

- ① 思いやりや規範意識を育む道徳・人権教育
- ② 家庭・地域ぐるみでの取組の推進

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
他者を思いやる行動を意識していると回答した児童生徒の割合	— （新規指標のため）	75% （初回調査により 基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査」における児童意識調査項目の中から「他者を思いやる/協働する/規範意識」に関わる設問のうち近い設問の割合を参考に設定。

1-1-3 いじめ・不登校対策と自己肯定感の育成

【現状と課題】

いじめや不登校の早期対応と継続的支援の体制を強化し、関係機関との連携を深めることが課題です。児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援と成功体験を通じた自己肯定感の育成が求められます。

【主な取組】

- ① 指導体制強化（いじめ未然防止、相談体制）
- ② いじめ問題等アドバイザー・相談員による相談体制強化

(案)

- ③ SOSの出し方教育、専門機関との連携
- ④ 関係者の連携など不登校対策の充実<新>
- ⑤ 自己肯定感・自己有用感の育成

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
自分にはいいところがあると思うと回答した児童生徒の割合	— （新規指標のため）	80% （初回調査により基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」における児童意識調査項目「自分にはよいところがあると思う。」との回答割合（令和6年度全国平均：小6約79%、中3約72%）を参考に設定。

1-2 確かな学力の育成

1-2-（1） 学力と情報活用能力の育成

【現状と課題】

ICT環境は整備されたものの、児童生徒や教員の活用力向上と実践的な発信力の育成が課題です。今後はICT活用と外国語教育を一体的に進め、自ら考え発信する力を高めることが求められます。

【主な取組】

- ① 情報活用能力の育成
- ② 外国語教育・国際交流、キャリア教育による価値観の醸成
- ③ 生きる力推進事業及び研究推進校の取組の充実

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
問題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと回答した児童生徒の割合	81.6%（小学生） 68.9%（中学生）	90.0%（小学生） 85.0%（中学生）

※ 現状値には、令和6年度実績値を記載。

1-2-（2） 基礎・基本の定着と学習習慣の形成

【現状と課題】

中学校の学力は県・全国平均を下回っており、家庭学習時間も短い傾向にあります。小中連携を軸に基礎学力の定着を図り、家庭・地域と連携した学習習慣づくりを進めることが課題です。

【主な取組】

- ① 基礎学力の確実な定着と、一人ひとりに応じた基礎学力定着と授業改善
- ② 学習習慣の形成の推進
- ③ 読書活動の推進

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回る項目数 （※調査対象：小5、中2）	小学校（男女）全国平均正答率を上回る 中学校（男女）全国平均正答率を下回る	小・中学校ともに全項目で全国平均正答率を上回る

※ 現状値には、令和6年度実績値を記載。

(案)

1-2-(3) 特別支援・インクルーシブ教育の充実

【現状と課題】

発達特性に応じた支援を必要とする児童生徒が増加しており、専門的な支援体制と人材育成の充実が課題です。学校・家庭・関係機関が連携した継続的な支援と、市全体でのノウハウ共有の強化が求められます。

【主な取組】

- ① 児童生徒への支援体制の強化と補助員の実践的研修の充実
- ② 特別支援学校との連携による学びの支援
- ③ ICTを活用した個別最適な学びの推進《新》
- ④ 多言語での支援教材の整備《新》
- ⑤ 柔軟な指導方法や教材の共有《新》

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
特別支援を必要とする児童生徒のうち、個別の教育支援計画を作成している割合	90%	95%

※ 目標値は文部科学省「特別支援教育体制整備状況調査（令和5年度）」の全国平均値小学校約94%、中学校93%を参考に設定。

1-2-(4) グローバル社会における人材育成（外国語教育の充実）《新》

【現状と課題】

多文化理解と英語を使った実践的なコミュニケーション力の育成が課題です。小中の連携を図り、実体験に基づく国際交流や外国語教育の充実を進めることが求められます。

【主な取組】

- ① 体系的な外国語教育の推進
- ② 国際交流を深める学習の展開
- ③ 多文化共生社会で生きる態度の育成

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
英語で自分の考えを表現できると思うと回答した生徒の割合	— （新規指標のため）	70% （初回調査により 基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）」における児童生徒意識調査項目「英語を使って自分の考えや気持ちを伝えることができると思いますか」における肯定的回答率（令和6年度全国平均中学校約66%）を参考に設定。

1-2-(5) 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成（SDGsの推進）

【現状と課題】

地域や地球規模の課題を自分ごととして考え、行動できる力の育成が課題です。学校教育全体でSDGsの視点を取り入れ、探究的な学びを通して持続可能な社会づくりに貢献する態度の育成が求められます。

【主な取組】

- ① SDGsの推進
- ② 地域づくりに貢献する人材の育成

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
-----	------------	-------------

(案)

地域や社会のために自分のできることがあると思うと回答した児童生徒の割合	— (新規指標のため)	75% (初回調査により 基準設定)
-------------------------------------	----------------	--------------------------

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書（児童生徒質問紙）の「地域や社会のために役立ちたいと思いますか。」の設問における肯定的回答率（全国平均小6約74%、中3約71%）を参考に設定。

1-3 健康で安全な生活のできる資質や能力の育成

1-3-（1）子どもの体力向上を図る取組の推進

【現状と課題】

体力の向上と健康な生活習慣の定着が課題であり、運動への意欲と継続的な取組を支える環境整備が必要です。部活動では地域移行への対応が進む中で、地域と連携した持続可能な指導体制の確立が求められます。

【主な取組】

- ① 学校体育の充実
- ② 学校保健の充実
- ③ 継続的な運動機会の確保

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
全国体力・運動能力調査の平均値 (※調査対象：小5、中2)	小学校（男女） 全国平均を上回る 中学校（男女） 全国平均を下回る	小・中学校ともに全国平均を上回る

※ 現状値には、令和6年度実績値を記載。

1-3-（2）学校給食の充実と食育の推進

【現状と課題】

食を通じた健康づくりと正しい食習慣の形成が課題です。地産地消の推進や栄養教諭による指導の充実を図り、心と体の健全な成長を支える食育の推進が求められます。

【主な取組】

- ① 学校給食の質の確保及び負担軽減
- ② 食育の推進

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
毎朝朝食を食べている児童生徒の割合	— (新規指標のため)	95% (初回調査により 基準設定)

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書（児童生徒質問紙）の「あなたは普段朝食を食べていますか。」の設問における肯定的回答率（全国平均小学校約94%、中学校約90%）を参考に設定。

1-3-（3）防災・防犯・交通安全教育の推進

【現状と課題】

災害の激甚化や通学時の事故防止など、児童生徒の安全確保が重要な課題です。防災・防犯・交通安全教育を体系的に実施し、自ら命を守る力の育成と地域と連携した安全体制づくりが求められます。

(案)

【主な取組】

- ① 防災教育の充実
- ② 防犯・交通安全教育の充実
- ③ 通学路の安全対策の推進

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
自分の身を守る行動がとれると思うと回答した児童生徒の割合	— （新規指標のため）	85% （初回調査により 基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果概要（生活習慣・安全意識項目）の「地震や火事などの時に、どうすればよいかを考えていますか。」の設問における肯定的回答率（全国平均小学校 84～87%、中学校 80～82%）を参考に設定。

基本方針2 学びを支える教育環境の充実

2-1 学習指導体制の整備

2-1-（1）教員研修と校内研究の充実

【現状と課題】

教員の研修内容と学校現場の課題が十分に結び付いておらず、授業改善の進捗に差があります。体系的な研修の充実と、教職員が共に学び合う仕組みづくりの推進が求められます。

【主な取組】

- ① キャリアステージに応じた研修の充実
- ② 教職員の学の間づくりの推進
- ③ 総合訪問及び経営訪問等の活用
- ④ 地域人材を活用した研修の実施<<新>>

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
授業で自分の考えを説明したり、友だちと話し合った活動があったと回答した児童生徒の割合	— （新規指標のため）	85% （初回調査により 基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書（児童生徒質問紙）の「授業で先生の話し方や説明は分かりやすいと思いますか。」の設問における肯定的回答率（全国平均小6 約 83%、中3 約 78%）を参考に設定。

2-1-（2）働き方改革の推進

【現状と課題】

教職員の長時間勤務が依然として課題であり、業務の効率化と負担軽減が求められています。業務の精選や外部人材の活用を進め、教職員が子どもと向き合う時間を確保する取組の充実が必要です。

【主な取組】

- ① 働き方改革の推進
- ② 教職員の業務量管理と健康確保の推進
- ③ 総合訪問及び経営訪問等を活用した情報共有
- ④ 職員間の意見共有<<新>>

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
-----	------------	-------------

(案)

月の超過勤務時間 4 5 時間以上の教職員の割合	— (新規指標のため)	40%以下 (初回調査により 基準設定)
--------------------------	----------------	----------------------------

※ 本指標は文部科学省「令和 4 年度教員勤務実態調査結果概要」の全国平均小学校約 64%、中学校約 77%を参考に設定。

2-2 教育環境の充実

2-2- (1) 学校施設・ICT 環境の整備

【現状と課題】

学校施設の老朽化が進み、教育環境の安全性や快適性の確保が課題です。ICT 機器の活用格差を是正し、学びを支えるデジタル環境の整備と支援体制の充実が求められます。

【主な取組】

- ① 安全で快適な学校づくり
- ② ICT 支援強化
- ③ 学校図書の充実
- ④ 学校規模適正化計画の推進

【目指す成果指標】

指標名	現状値 (令和 7 年度)	目標値 (令和 10 年度)
学習支援ソフトを使うことで授業が分かりやすくなったと思う児童生徒の割合	— (新規指標のため)	80% (初回調査により 基準設定)

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和 6 年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書(児童生徒質問紙)の「タブレット端末やデジタル教材を使うことで、授業の内容が分かりやすくなったと思いますか。」の設問における肯定的回答率(全国平均小 6 約 78%、中 3 約 73%)を参考に設定。

2-2- (2) 安心して学べる学習環境の確保

【現状と課題】

経済状況に関わらず、すべての子どもが等しく教育を受けられる環境づくりが課題です。学校・家庭・関係機関が連携し支援体制を構築した安心して学べる環境整備が求められます。

【主な取組】

- ① 安心して学習できる環境づくり
- ② 多様な学習機会の提供

【目指す成果指標】

指標名	現状値 (令和 7 年度)	目標値 (令和 10 年度)
安心して学校生活をおくれていると回答した児童生徒の割合	— (新規指標のため)	85% (初回調査により 基準設定)

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和 6 年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書(児童生徒質問紙)の「学校生活は楽しいですか。」「友達や先生と安心して話ができますか。」の設問における肯定的回答率(全国平均小 6 約 88%、中 3 約 79%)を参考に設定。

2-3 家庭・地域・学校の協力体制の充実

2-3- (1) 学校と家庭や地域をつなぐ取組の充実

【現状と課題】

地域と学校の連携は進む一方で、相手の固定化や負担の偏りが課題です。家庭・地域・学

(案)

校が協働し、持続可能な体制のもとで地域に根差した教育活動を展開することが求められます。

【主な取組】

- ① 保・小・中・高連携の推進
- ② 学校評価の充実
- ③ 学校運営協議会の体制づくりと取組の充実
- ④ 地域の教育資源の活用
- ⑤ あいさつ運動の推進
- ⑥ 地域ボランティア等の人材確保と活用推進<<新>>
- ⑦ 参加しやすい環境づくりの整備<<新>>

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
地域と学校の連携に満足していると回答した保護者の割合	— （新規指標のため）	75% （初回調査により 基準設定）

※ 本指標は文部科学省「地域とともにある学校」推進本部調査（令和5年度）の結果、「地域と学校の連携・協働に満足していますか。」との設問に「満足」、「やや満足」と回答した保護者の全国平均約72%を参考に設定。

基本方針3 教育のデジタル化の推進<<新>>

1 教育のデジタル化の推進

1 教育のデジタル化の推進

本基本方針は、基本方針1の「生きる力を育む学校教育の充実」や基本方針2の「学びを支える教育環境の充実」など教育のデジタル化を計画的かつ持続的に進めるための基本的な方向性を示すものです。

【現状と課題】

GIGAスクール構想によりICT環境は整備されたものの、活用の深度や指導力には学校間で差があります。教職員のICT活用能力向上と、児童生徒の情報活用能力を育む学びの充実が求められます。

【主な取組】

- ① 教職員のICT活用指導力の向上
- ② 児童生徒の情報活用能力の育成
- ③ 将来のデジタル人材の育成

【目指す成果指標】

指標名	現状値（令和7年度）	目標値（令和10年度）
ICTを活用して学ぶことが楽しいと回答した児童生徒の割合	— （新規指標のため）	80% （初回調査により 基準設定）

※ 目標値は文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果報告書（児童生徒質問紙）の「タブレット端末やデジタル教材を使うことで、授業が楽しくなったと思いますか。」の設問における肯定的回答率（全国平均小6約75%、中3約68%）を参考に設定。

【生涯学習の充実と地域文化・スポーツ文化の振興】

基本方針4 生涯学習の推進による地域活性化

(案)

4-1 生涯学習の充実

4-1-1 生涯学習の推進

【現状と課題】

地域によって学習機会の偏りがあり、生涯学習の推進体制が十分とはいえません。公民館や図書館などを活用し、地域住民が主体的に学び合う環境整備が求められます。

【主な取組】

- ① 家庭教育の推進
- ② 青少年健全育成の推進
- ③ 地域学校協働活動の推進
- ④ 公民館や市立図書館の充実

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和元年度）	目標値（令和7年度）
(1)	親の学び講座の参加者数	3,692人	3,800人
(2)	青少年のボランティア・体験活動参加者数	840人	950人
(3)	地域ボランティア参加者数	25,567人	26,000人
(4)	中央公民館主催事業延べ参加者数	652人	900人
(5)	市立図書館での図書貸出冊数	51,851冊	72,000冊

4-1-2 人権教育の推進

【現状と課題】

人権意識を高めるための学びや啓発の機会が不足しています。多様な世代が参加できる人権教育・啓発活動を継続的に展開することが求められます。

【主な取組】

- ① 人権講演会の実施
- ② 人権講話（出前講座）の実施

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和10年度）
(1)	人権講演会の40代以下の参加者割合	13.7%	17%
(2)	人権講話の参加者数	535人	800人

基本方針5 個性豊かな地域文化の振興

5-1 地域文化の振興

5-1-1 文化芸術活動の促進

【現状と課題】

市民が文化に触れあう機会が少ないことや、文化芸術活動を推進する団体の高齢化等により郷土資料や郷土芸能の次世代への継承が課題となっています。

【主な取組】

- ① 文化芸術公演等に触れる機会の提供
- ② 文化芸術活動の支援

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和元年度）	目標値（令和10年度）
--	-----	------------	-------------

(案)

(1)	いきいき芸術体験教室参加者数	576 人	600 人
(2)	伝統文化継承団体数	11 団体	12 団体

5-1-(2) 文化財の調査と保存活用、情報発信

【現状と課題】

地域の歴史や文化を象徴する文化財の保護と継承が課題です。デジタル技術を活用し、保存とともに広く情報発信を行う取組が求められます。

【主な取組】

- ① 文化財の調査研究・保存整備
- ② 文化財の公開活用・情報発信

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和元年度）	目標値（令和10年度）
(1)	上天草市の文化財や歴史について学びたいと思う割合（市民意識調査）	37.2%	50%
(2)	出前講座および自主研修の参加者数	240 人	300 人

基本方針 6 スポーツ文化の振興による地域の活性化

6-1 スポーツ機会の充実

6-1-(1) スポーツ活動の推進

【現状と課題】

健康づくりや地域交流の観点から、世代を問わずスポーツに親しむ環境整備が課題です。学校・地域・団体が連携し、生涯を通じて運動に親しむ機会の拡充が求められます。

【主な取組】

- ① 市民のスポーツ機会の拡大
- ② 市民のスポーツ活動の普及体制の確保
- ③ スポーツを通じた市民交流の拡大

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和6年度）	目標値（令和10年度）
(1)	スポーツイベントに参加する市民の数	3,329 人	6,500 人
(2)	月に数回以上、運動・スポーツを行っている人の割合	33%	50%

6-1-(2) スポーツ施設の活用と整備

【現状と課題】

スポーツ施設の老朽化や利用率の低下が課題です。長寿命化計画に基づく整備と、地域や団体が協働で活用する仕組みづくりが求められます。

【主な取組】

- ① 施設環境の確保

(案)

② 社会体育施設の有効活用

【目指す成果指標】

	指標名	現状値（令和 6 年度）	目標値（令和 10 年度）
(1)	体育施設利用者数	188,662 人	230,000 人
(2)	スポーツ合宿利用団体数	31 団体	45 団体